

会山行記録

通算山行NO	No. 277A(春山山行)	報告者	加藤 秀子
年月日	2004年4月29日(木)～5月2日(日)	二万五千円＝立山・黒部湖・剣岳・十字峡	
山名	全体のコース＝剣岳一周(室堂～別山乗越～別山～剣沢～二股～池の平小屋～小黑部谷～大窓雪溪～大窓～白萩川～馬場島) 報告のコース＝室堂～別山～剣沢～剣山荘(泊)		
今日の体力度＝4 技術度＝4 藪漕度＝0 道標＝あり 展望度＝良い			
別山沢はいつか捲土重来だ			
コースと タイム	4・29＝富士7:00—割石温泉11:30～16:30—立山駅20:00(泊) 30＝立山駅6:20—室堂7:40—別山10:30—剣沢11:30—剣山荘12:30—スキー訓練14:00(剣山荘泊)		
標高差	上り:室堂～別山＝597m 下り:別山乗越～剣山荘＝300m		
参加者	CL 後藤隆徳(57) 加藤秀子(55)		

一日目(29日)

連休初日は車の渋滞もなく、スムーズに走る。今日は白馬経由ではなく、松本ICでおり、安房峠経由、岐阜県神岡町から富山県立山町に入る予定だ。久しぶりに通る沢渡で「さとう」にチョット顔出しご挨拶。ここのご夫婦は、何時行っても変わらない笑顔で、わざわざ出迎えてくれるのがとても嬉しい。おまけに飛騨の牛乳を貰って飲んだ。ヨシ！明日はこれで頑張れる！

途中の林道沿いは未だ桜が見事に咲いていた。新緑の柔らかい緑と、濃いピンク、薄いピンクが入り混じり山が見るからにみるみるしい。神岡町のはずれにある、町営・割石温泉に立ち寄った。ここで車のエンジンのトラブルにあい、一時は帰るに帰れず？ 行くに行けず？ と思案に暮れたがジャフの力で何とか解決。山行を続行させる事ができた。

富山に入り、折角だから美味しい地場の魚でも食べようと駅前を探して歩き、「さんじゅうまる」という暖簾のさがった店に寄る。ここで「生ほたるいかの刺身」を初めて食べた。今は臓物に虫がいるとの事で生では出さない所があらましたが、此处では臓物を先に抜いてしまうという。美味？ そしてご飯粒のおいしいこと。これには感激した。又お酒もウマイ！ 言うことなしでした。

腹も満腹。富山から北陸自動車道の立山ICまで一区間のり、電鉄・立山駅の無料駐車場へ駐車。そのままシュラフにもぐる。

二日目(30日)

路上で朝ご飯をすませ、身支度をして立山ケーブルの改札口に並ぶ。始発の未だ1時間前なのに既に人がいた。美女平駅までの標高差502m、所要時間は7分。此处から高原バスに乗り

換え、室堂駅まで全長23キロを約55分間、ブナの自然林や雪のトンネル等、車窓の景色を楽しむ。ただ、私はいつの間にかウツラウツラし始め、気がついたら室堂だったのが残念。

先日の低気圧で新雪が50cm程積もったらしい。雷鳥沢に滑り込むのに、その雪が悪さをし板が思うようにまわらず滑らずだ。CLも同感だった。何とか転ばずには滑ったけれど、先が思いやられる。但し、滑るにはやっかいだが、シール登行には最適な雪だった。逆滑りがない。クイクイっと効きがいい。別山乗越しまでの急騰もグングン高度をあげ、あまり疲れることなく到着。振り返った雷鳥沢は、カラフルなテントが白い雪の中に、まるで花が咲いたようだった。

小屋の裏手から別山を目指す。一登りで狭い稜線に出、2回ほど小さいアップダウンを繰り返すと頂上だった。視界に入る剣が雄大だ。八つ峰が険しい。剣沢はきれいなスロープだ。うーん。素晴らしい！ アルプス的な風景に見とれていると、これから滑り込む別山沢を見に行ったCLに呼ばれた。《どうだ。滑れそうか？》「うーん。だいぶ急だねえ。滑ろうと思えば滑れるけれど、新雪のうえ、右は寡雪で地面が見える。これじゃ楽しめそうもないねえ」《そうだなあ。無理しても仕方がないか。》と別山乗越まで引き返した。

そうは言っても、まだ未練が残るのか、剣沢の斜面をトラバース気味に、別山から落ち込む最低鞍部を目指していた。かなりの斜面である。それにしても28日降った50Cmの雪の状態があまりにも悪い。板がひっかかるようで、身体が前につんのめりそうになる。《どうだ。此処から登れそうだが？》「コルまでだいぶあるね。それにやっぱり雪が悪すぎるよ」と私。《やっぱ駄目か。じゃ小屋に行くか〜》

とにかくバランス崩さないようにと、太腿をグッと踏ん張りながら小屋に滑り込む。疲れた。登るより疲れたよ。小屋で手続きを済ませ、まだ早いからと小屋の裏側、前剣の手前で遊ぶことにした。急登をひと登りし、前剣に向かって、遭難死した「三島芳山の柳ちゃん」に手を合わせる。何が去来するのだろうか。黙禱を捧げるCLの後姿を見ていつもそう思う。

よほど気になるのか再びCLの視線が別山沢に向いた。《行きたかったなあ〜》と呟くその一言に胸が痛む。CLの出足を私が挫いてしまったのだと。後悔先に立たず・・・とは正に言ったものだ。取り返しがつかない。今から登り返して行こうとは、とても言う元気がないし、明日の厳しい行程に迷惑をかけない為にも体力を温存しておきたいのが実情だ。言葉をグッと飲み込み、黙って同じ方向を眺める。

《さあ滑るか！》CLの後に続く。やはり快適な滑りではない。重い。何回滑っても、これじゃ同じだねと言うことで終了し小屋に落ち着くことにした。私達が一番乗りらしい。とにかく朝も早かったからと昼寝。目覚めて休憩室に行くと20人の人数が増えていた。その中で山スキーは僅か2名のみ。一様に今日の雪は今までで最悪！と嘆いていた。シンプルな夕食、(但しご飯は超ウマイ)を終え、明日の為に早く寝床にもぐった。小屋の対応はとても気持ち良かった。

通算山行NO	No. 277A(春山山行)	報告者	後藤 隆徳
年 月 日	第3日目=5月1日(無風・快晴)	二万五千円=立山・黒部湖・剣岳・十字峡	
山 名	報告のコース=剣山荘～二股～池の平小屋～小黒部谷～大窓雪溪～大窓～中仙人谷(仮称・白萩川)～馬場島		
今日の体力度=5 技術度=4 藪漕度=0 道標=なし 展望度=最高			
恐怖の大窓雪溪上りだった			
コースと タイム	起床4:00-出発6:00-二股6:50-池の平小屋-8:25-小黒部谷-大窓雪溪9:00-大窓11:10~25-馬場島13:00		
標 高 差	上り:二股1590m~池の平小屋2045m=約455m 小黒部谷1525m~大窓2175m=約650m 下り:剣山荘2450m~二股1590m=約860m 池の平小屋2045m~小黒部谷1525m=約520m 大窓~白萩川林道終点760m=約976m		

三日目(1日)

静かな美しい朝が明けた。小屋のテラスから眺める鹿島槍は素晴らしかった。小屋の計らいで朝食は30分早かった。この小屋は全体的に対応がとても良かった。このような小屋はまた利用したくなるのが人情だ。1989年5月4日、すぐ近くの前剣で遭難死した柳下君の事故時もここに世話になった。このテラス横から網に吊るされヘリで持ち上げられる光景が未だに脳裏に焼きついている。山で絶対死んではいけないのだ……。

カチカチの剣沢を下る。2年連続で5月末・6月初旬に来ているが、やっぱり5月初旬は雪がいい。一気に二股まで滑れた。剣沢は二股付近で少し流れているだけだった。天気は無風快晴。三ノ窓雪溪の向こうにチンネが一気にせり上がる。

右股を上る。雪が多くとても歩き易い。つぼ足跡があった。何故かハエが一匹転がっていた。池の平に上ると剣全体が見渡せた。(表紙写真参照)いつみても「格好いい」の言葉以外必要のない景観である。

池の平小屋に上る。今年は小屋前の雪庇がなく、最低コルをそのまま上れ労力は少なかった。以前、北方稜線で遊んだ時、この小屋に泊まった。ビアが温いので加藤が下の池までバケツで雪を取りに行った事、ビア片手に剣を眺めながら、ドラム缶の風呂に入ったことを思い出した。そんな小屋も今は、屋根を少し出しているだけだった。

ここから大窓雪溪出合まで650mの滑降だ。出だしは急だった。とにかく怪我は怖いので慎重に行く。少し下るとU字谷が開け、超超快適なスキーとなった。誰でも「ワオ～

う」と思わず叫んでしまう。

出合に着くと何と大窓雪渓を一人上っている。意外だった。後で分かったが、昨夜池の平で泊まった名古屋の方だった。ここから恐怖の上りが待っていた。何が恐怖かと言うと、28日に降った50Cmの新雪が硬い旧雪の上に載ってグズグズで歩き難いのと、気温上昇で左右からズルズル雪崩れているからである。

とにかく速くここを抜きたいのであるが、650mの上りはそう簡単ではない。途中までシールで頑張るが、余りに上り難いのでスキーを背負ってつぼ足に変更する。と、その時我々がスキーで歩こうとしていたコースに上部から「ズズズズズー」と雪崩が走る。「うわ～、怖や～」。まあ、死ぬことはないと思うが、足の一本くらい折れるであろう。危なかった。それより、本流も心配である。ったく～、季節外れの大雪はヤバイ。

そこからとにかく必死で上り、何とか大窓に乗越した。ここも、雪庇が懸念されたが、真ん中が崩れ、そこだけ雪庇が無く難なく越えられた。加藤もよく頑張り到着。女性でここはかなり厳しいかも。俯瞰する大窓雪渓は圧倒的だった。

大窓からはもう上りは無い。快適な滑降だけである。所が意外にも富山側は雲海が一面に広がっていた。は～、天気は分からない物だ。結果的には立山駅で小雨が降っていたのだ。

ここから白萩川(仮称・中仙人谷)に向かって突っ込む。実はここの呼称だが、2万5千図を見ると大窓から白萩川に至る沢の名称は無い。約標高1480mで東仙人谷と西仙人谷が出合うが、この東・西が分からない。何を、何処を基準に東・西なのか？で、中を採用して仮称・中仙人谷としたが・・・。

上部は超快適なザラメだ。スキーがよく滑った。やがて斜面は急激に白萩川に落ちていく。同時に落石がゴロゴロと多くなり、スキーはボコボコになっちゃった・・・。

名古屋氏も苦勞しながらも奮闘。1480mまで降り切ると快適なU字谷が延々と続くが雲海下でガスがちょっとお邪魔虫。資料では林道に出る堰堤付近で一旦、右の小尾根を乗越とあったが、今年は寡雪？にもかかわらず、全く問題なく林道に出られた。ラッキー(笑い)。

道で大休止。ここまで来れば大丈夫。互いの健闘をたたえあう。馬場島までフキノトウを沢山採る。私の味噌汁用だ。花も沢山咲いていた。

馬場島から名古屋氏と立山駅までタクシーを飛ばす。運ちゃんは若い人の良さそうな方。メーターなら1万8千円位というが、無理やり三人で15000円でやれと脅迫？し、渋々、了承させる。(笑い)

だけどちゃんと、駐車場の車の前まで送ってくれた。いい人だ。翌日は沢渡の「さとう」に寄り、10周年のお祝いのお礼を言って帰った。